



＜愛知県小牧市＞

ケアマネジャーを対象に福祉用具サービス計画書の作成研修会を開催

平成24年4月から、福祉用具専門相談員に、福祉用具サービス計画の作成が義務付けられた。本会では昨年度、義務化を見据え、厚生労働省の助成を受けて「ケアマネジャーと福祉用具専門相談員との合同研修」をモデル的に実施してきた。実際に福祉用具サービス計画を活用するケアマネジャーにも同計画に関する理解を深めてもらい、効果的な活用に導いてもらうために企画した研修会だ。今、ふくせん会員（福祉用具専門相談員）を中心に、各地で同研修会と同様の取り組みが行われ始めている。

去る9月12日、小牧市介護支援専門員連絡協議会（小牧市社会福祉協議会内）主催による、「小牧ケアマネカレッジ」が開催された。内容は、「福祉用具サービス計画書（以下、計画書）の作成」について。当日は16名のケアマネジャーが参加し、事例検討方式で、計画の意義や構成等について学んだ。研修会の開催にあたっては、本会会員である福祉用具専門相談員（7名）が協力し、講師やファシリテーターを務めた。

開会挨拶を行ったのは、青山洋佑氏（本会会員、有限会社かしわばらメディカル）。青山氏は、昨年度ふくせんが開催した「計画の普及リーダー養成研修」（計画を地域・職域で普及するリーダーを養成する研修）に参加し、その後、普及リーダーとして愛知県での研修会の折に活躍している。計画作成義務化による現状と今後目指していく方向性について延べ、研修会のスタートを切った。

はじめに、本会会員である横地貴重氏（株式会社ヤマシタコーポレーション）による計画書の概要説

明が行われた後、グループに分かれ、事例検討を行った。事例検討では、実際の事例をもとに、ご利用者に適合しそうな福祉用具を選定し、その福祉用具を選定した理由や使用上の留意点等を計画書に落とし込んでいく。ケアマネジャーに実際に計画書を作成してもらおうことで、その意義や構成に対する理解を深めてもらい、現場でのチームケア等に活かしてもらおう目的だ。

参加したケアマネジャーからは、「福祉用具専門相談員がどのような目線で商品を選定しているのかわかり、理由付けの深さに改めて感心した」、「導入に対しての目的を明確にすることで、同じ福祉用具でも捉え方が変わらと思った」、「使用環境を整理することで、使用上のリスクが明確になる。それを留意点として共有することの重要性を理解できた」等、計画書の意義や重要性を感じてもらおうとともに、リスク管理等、今後の活用についてイメージを掴んでもらえる内容となった。

これまで福祉用具専門相談員と合同で研修を行うことはほとんどなかった「小牧ケアマネカレッジ」。今回の開催に尽力してくれたのは、小牧市社会福祉協議会在宅福祉課長の田中氏だ。田中氏は、本年4月の義務化以前から、計画の必要性を訴えてきた人物。義務化に伴う横地氏の働きかけに賛同し、研修会を実現に導いてくれた。

本会では、今後も同協議会との連携を強化し、ケアマネジャーとの協力関係を深めていくとともに、愛知県ブロックの組織化、活動の活性化に努め、ひいては福祉用具サービス及び福祉用具専門相談員の質の向上に貢献していきたい考えである。



写真) グループ別事例検討の様子